

2025春闘スタート

大阪自治労連中央委員会で寺内副委員長の閉会あいさつと
団結ガンパロー（2月9日 大阪グリーン会館ホール）



大阪自治労連は2月9日、第95回中央委員会を大阪グリーン会館にて開催し、2025年春闘方針案が全会一致で確認されました。2025国民春闘では、「すべての労働者に大幅賃上げ」「物価高騰を上回るベースアップ」「最低賃金1500円以上」をはじめ、物価高騰を上回る全ての世代に賃上げ実現をめざします。さらに、社会保障の拡充と能登の被災地支援など、いのちとくらしを守るため奮闘します。

さあ立ち上がって みんなの力で前進を



職場と地域から要求をかけた「怒りの労働者総行動」
(1月29日 大阪市内)



新春旗開きの楽しい雰囲気です。前列左から3人目が林辻委員長、その右が山本書記長



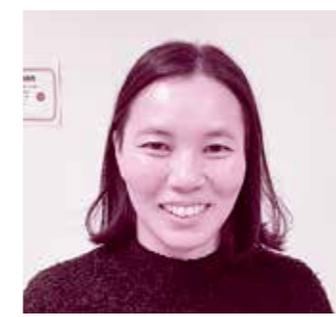
豊中市職労 小さな組合だけど新しい仲間 と笑顔で元気なとりくみを

1月28日の旗びらきで、林辻委員長は「小さな労働組合だけど、組合員と職場の声を聞いて、みんなで楽しい市職労運動をすすめてよ」とあいさつ。じゃんけんゲームなど楽しい企画で盛り上がり、学童保育指導員や会計年度任用職員の組合員をはじめ、地域の労働組合や住民団体と交流を深めました。

執行委員の池本望さんは、採用10年目です。会計年度任用職員として市民税課で働いています。池本さんに職場や労働組合について思いを語ってもらいました。

豊中市職労の力で非常勤職員に明るい展望が

5年前、会計年度任用職員に任用されると賃金が大きく下がり、非常にショックを受けました。でも、自治労連や市職労のがんばりで、正規職員と同様に「毎年昇給」と改善されて、本当によかったです。毎年賃金が上がると住民サービスの仕事のほこりとやる気が出てきます。もっと職場の雰囲気がよくなると思うんです。



「休日に時間があればドライブ。気ままにハンドル握って走ってます」と池本さん

要求実現の近道はみんなが組合に入ること

働けば労働組合に加入するのが当たり前だと思います。父は労働組合の役員でした（大阪自治労連執行委員や藤井寺市職労執行委員長などを歴任した故中町裕一さん）。いつも活動する姿を見ていた

非正規職員の切実な要求が大きく前進

山本書記長は、「これまでに『会計年度任用職員の任用回数上限なし』『正規職員と同一月数の期末勤勉手当の支給』を実現しました。昨年末の賃金確定交渉では、学童保育指導員など任期付短時間勤務職員の3年に1回の昇給を正規職員と同じく、『毎年昇給』との前進回答を得て、ほんまにうれしい」と笑顔で振り返ります。

さらに「生計費原則」「正規との均等待遇の実現」に向けて、新しい仲間を増やしてみんなでがんばりたいと決意しています。

ので「労働組合は大切なもの」と、迷わず市職労に加入しました。市役所の本庁で働く職員をみても、労働組合に加入している人が少ないです。みんなが組合に加入することが要求実現の近道なので、そのためには市職労の仲間を増やしたいですね。

そもそも正規職員を減らし、委託や非正規を増やした結果、多忙で深刻な職場実態が常態化しています。そして、職員の中でも「仕方ない」とあきらめ感が漂っています。だから「がんばれば報われる」「自分はやっている」という前向きな職員ほど、メンタル不全や休職するケースが少なくないですね。